

第5学年 環境学習指導案

平成26年7月11日（金）5校時
高知市立第四小学校（全36名）
授業者 5年1組 担任 西村一輝

1, 教材 鏡川の環境と生き物 ―環境学習プログラム―

2, 教材観

本教材は、理科新学習指導要領〔第5学年〕1目標(2)「身近に見られる動物や植物、日なたと日陰の地面を比較しながら調べ、見いだした問題を興味・関心をもって追究する活動を通して、生物を愛護する態度を育てるとともに、生物の成長のきまりや体のつくり、生物と環境とのかかわり、太陽と地面の様子との関係についての見方や考え方を養う。」を基にして設定したものである。

高知市内には、高知市のシンボル「鏡川」が流れている。川は子ども達にとって、登下校時に毎日のように目にしている児童も多く、身近に感じているはずである。

まず、実態把握として「川の環境と生物アンケート」を実施してみた。質問①「鏡川は、水質が良いと思いますか。」の問いに「はい」と回答した児童13名。質問③「鏡川で遊んだ経験がありますか。」の問いに「はい」と回答した児童17名。何と、半数以下の結果となってしまった。もはや、川は自分達の暮らしとの関わりについて考える対象ではなくなっているようである。個人差があるとはいえ、身近に鏡川がありながら、川遊びをした経験は少なく関心も薄いことが明らかとなった。

本教材は、このような傾向にある児童に川の素晴らしさを体験してもらいたいという願いから出発したものである。そして体験活動では、高知市環境政策課自然保護担当の方々との協力を得て、豊かな自然体験活動（水質検査・水生生物の採取）を計画し、高知県生涯学習課の支援も有り、清流鏡川の素晴らしさを体感することができた。

そこで、本授業においては、簡易水質検査（パックテスト）により「水質良好」となった理由について予想させる。そして、現在の豊かな鏡川の自然環境は、一足飛びに実現した訳ではなく、行政側の政策や地道な市民一人ひとりの環境保全意識の高揚によって実現したものであることをつかませ、豊かな自然環境を保全していこうとする態度を育成したい。

3, 目標

- 野外での活動を通し、自然事象を関連付けて考えようとする態度を育成する。
- 自然環境を大切にし、その保全に寄与することにより、自分の住んでいる地域を見直し理解を深め、地域への自然への関心を高めさせる。

4, 指導計画

- 第1次 オリエンテーション・・・生活と水との関わりについて考える。（1時間）
- 第2次 鏡川の環境と生き物・・・高知市のシンボル鏡川について知る。
鏡川での体験学習(3時間)
(高知市環境政策課「鏡川自然環境学習会」)
- 第3次 まとめ・・・すばらしい自然環境を守る態度を育成する。（1時間）

5, 本時の指導

(1)目標

- 鏡川が生き物にとって住みやすい川となってきたのは、行政や市民一人ひとりの努力があることを知り、この自然環境をいつまでも大切にしていこうとする態度を育てる。

(2)準備物

- 川の写真（昔と今） ○ 三面工法写真 ○ 鏡川の生き物 ○ 活動の写真

(3)展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価
知 る 10 分	1, 体験活動の結果を発表する。 (1)水質について (2)岸辺の植物について (3)水生生物について	○体験活動の写真等を提示し、意欲付けする。 ・上流域の水質を知らせ、比較検討させる。 ・河原だけに生息する植物が生えている事をつかませる。 ・清流と同じ水生生物が生息している事をつかませる。	体験活動を通して学んだ内容を発表できたか。
つ か む 25 分	2, 課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 高知市のシンボル「鏡川」に、多様な生き物が生息していたのはなぜだろう。 </div> (1)昔の鏡川について知る。 ・堤防工事 ・三面工法 (2)水質の改善に気付く。 ・家庭排水 ・農業用水 (3)現在の鏡川の様子について発表する。 ・自然工法 ・河原の石 ・植物の群生	・課題を提示し、高度成長時代の様子と今の様子を比較検討させる。 ・下水処理が整ってきたことを知らせる。 ・現在の鏡川は、憩いの場を意識した公園や生態系を考えた作りに変化していることをつかませる。	課題意識を持ち、提示された資料を基に想像豊かに考えを膨らませることができているか。
ま と め る 10 分	3, 環境保全の態度を育む。 (1)美しい鏡川を守るために、自分達にできることはないか考える。	・絶滅危惧種に指定された日本ウナギを話題にする。 ・小学生であるという立場から、自分達にできそうなことを考えさせる。 ・鏡川の環境保全に取り組む活動があることを知らせる。	提案内容が現実的な事柄であるか。